夫婦池公園（ふうふいけこうえん）

所 在 地・・・ 神奈川県鎌倉市鎌倉山2-2-2

面　　積・・・ 65,000㎡

実施主体・・・ 鎌倉市景観部公園海浜課

問合せ先・・・ 【住所】神奈川県鎌倉市御成町18-10 本庁舎3階
【TEL】0467-23-3000

夫婦池公園（園内の概要）

対象地の概要・・・本公園は、鎌倉山と笛田の山合いにある2つの池（夫婦池）を中心とした自然豊かな、散策を楽しむことができる風致公園である。家族とともに自然とのふれあいが楽しめる公園を基本コンセプトとし、夫婦池及び周辺の樹林地について、市民の憩いの場、散策の場とするとともに、**樹林の保全・回復を図るため、都市公園として整備**した。また、利用者が自然と触れ合うきっかけとなる情報の提供、活動の場、さらに公園全体の管理の拠点としてパークセンターと駐車場が整備された。

事業への取組みのきっかけ

夫婦池及び周辺の樹林地について、市民の憩いの場、散策の場とするとともに、**樹林の保全及び回復を図るため、都市公園（風致公園）として整備**した。当該地の、**池及びその周辺の湿地に現存する水性・湿性植物は、種の固有性・多様性・鑑賞性等から、その自然性が高く評価**され、**樹林地の、ハンノキ、オニシバリ、コナラ等の群落は保全を図るべきものがあり**、公園資源として活用性の高い植物を多数確認していることから、**それらを保全する公園整備を実施**した。

整備の概要

都市計画決定・・・平成9年（1997年）9月

①「湿性植物・水際植物の植栽」に向けた整備手法

Step1：自然環境調査による現況把握

（仮称）夫婦池公園**自然環境調査を実施**し、生物及び水環境についての現況を把握した。**湿性植物群落には、ガマ、ミゾソバ等の湿地特有の植物**が多く生育していることが確認された。また、**林床部では、ハンノキ林が自然林の姿をとどめていることが確認**された。

Step2：水辺や林床部に植栽する樹林等の選定

水辺地では植生しているヨシ、ガマを優先しながら、更に**茎植え法により移植**する。また、**林床部ではハンノキ群落については土壌の水分条件を変えないように配慮**するとともに、**水辺林としてふさわしくない種を伐採**する。**ミゾソバ、ハンゲショウ、ドクダミ、アキノタムラソウ、ツリフネソウ等の湿性植物を保全**する。

Step3：公園整備時に間伐・下草刈りの実施

夫婦池公園基本計画・基本設計を策定し、具体的な保全の方策等を定めた。**水中から陸上へと変遷していく植生を保全**し、**自然性の高い水辺の植生帯を形成**する。池に近い部分は**アズマネザサを刈り取り、現況において優占しているヨシやガマを中心とした植生を目指した。**

ガマ

ミゾソバ

ヨシ

ハンノキ林

ハンゲショウ

ドクダミ

アキノタムラソウ

ツリフネソウ

② 整備時の協働者との関わり　⇒鎌倉市緑化推進専門委員（専門家）

鎌倉市緑化推進専門委員（専門家）の意見を参考に、希少種等の保存を検討した。

③ 整備時の留意点

自然的条件より、2つのゾーンを設定し保全を図った。

＊夫婦池保全ゾーンでは、水質、底質共に汚濁が進んでいる夫婦池の浄化を図り、周辺は現況を活かしつつ湿地に対応した連続的な植生域の形成を図った。

＊樹林保全ゾーンでは、現況の植生を活かしつつ、より多様性のある生物相に留意した樹林の形成を図った。

維持管理の概要

④「湿性植物・水際植物の植栽」に向けた維持管理内容

湿地部の草刈りは希少植物に注意しながら行っている。また、近年出現した**アゾラ・クリスタータ（環境省が指定した特定外来生物）**は指定管理者である（財）鎌倉市公園協会の職員によって、**手作業で除去**をしている。

⑤ 維持管理時の協働者との関わり　⇒鎌倉市緑化推進専門委員（専門家）

鎌倉市緑化推進専門委員（専門家）の助言に基づき、貴重種を残している。定期的なモニタリング調査、それに伴いエコアップ作業が実施されている。

⑥ 維持管理時の留意点

＊**池の水位を下げることにより、ブルーギル等外来種を野鳥に捕食**させている。

＊鎌倉市緑化推進専門委員からの助言等に基づき貴重種を残す維持管理活動をしている。

アゾラ・クリスタータ（特定外来生物）

ブルーギル（外来種）

備　考

現在の課題

水質が悪化している可能性がある。

湿地部の乾燥化と植生の変化が目立っている。

ブルーギル等の外来生物への対応と、近年出現したアゾラ・クリスタータの除去が課題である。

今後の展望

定期的に水質調査を行うとともに、**外来種の除去を徹底して行い、湿地部の保水性を向上することで貴重種の保全や良好な水辺環境の維持**を行っていく。

事業効果

●ゲンジボタルの増加が観察されている

© 九都県市首脳会議 環境問題対策委員会 緑化政策専門部会
平成23年12月作成